このマンサクの枝を人間が持って、実際にカモシカを追い払ったのでしょうか。私はそうではないと思います。冬の間、マンサクの枝は雪の中に閉じ込められています。ところが、春の暖かい日差しによって雪が解けてくると、その枝がパシッと音を立てて、突然立ち上がってきます。その付近で木の芽などを食べていたカモシカが、そんな状況に驚き、その場から追い払われます。こんな情景が「シシハライ」の名の由来ではないかと思っています。

さらに、マンサクの枝は、雪国になくてはならないものです。秋山郷の猟師さんたちによると、春、熊取りに出かける時に履くツメカンジキの材料なのだそうです。ツメカンジキは、雪の上を沈まないように、すべらないようにという目的で履きます。これには、親指ほどの太さのマンサクの枝を茹でて曲げていくのですが、材料がしなやかであるため　作りやすく、しかも丈夫だそうです。木の特徴を細かく知り尽くし、それを上手に活かしてきた秋山郷の人たちの知恵を知り、私はとても豊かな気分になることができました。